

1 ほ場の準備

1) 排水対策

- ◆ 麦類では、『①出芽・生育初期』
『②節間伸長期～登熟期』に
湿害の影響を受け易いため、
収量・品質の向上に向けて
排水対策を実施しましょう。
- ◆ 降雨による停滞水を速やかに
除去するため、弾丸暗きよや
明きよを設置しましょう。
明きよは 10～30m 間隔、
深さ 20～30cm で設けます。
排水が悪いほ場では 5m 間隔
で施工しましょう。

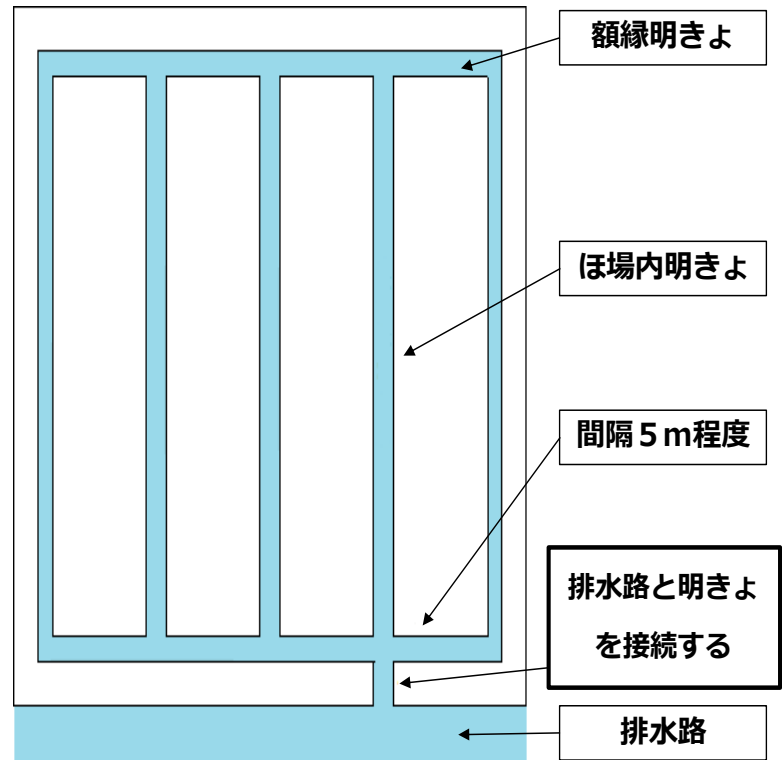


図 明きよの設置方法

2) 酸度矯正

- ◆ 転換畑は、通常 pH5.0～6.0 程度の弱酸性です。麦では根の伸長阻害により、生育不良となる場合があります。大麦では「pH6.1～7.0」の微酸性～中性を目安に、石灰資材を施用しましょう。

3) 基肥

- ◆ 越冬前に十分な生育量を確保するため、基肥を施用しましょう。
目安：窒素 8～10kg，リン酸 8～10kg，カリ 10kg（10a あたり施肥量）

* 稲わらをすき込む場合は、1～2 割増にします。（稲わらを分解する微生物と麦が、窒素を奪い合うことで生じる「窒素飢餓」を抑制するため）

2 適切な播種条件

1) 播種適期

◆ 管内の播種適期は 10 月 15～20 日、播種晩限は 10 月 30 日です。

* 播種時期が遅れるほど出芽に時間がかかり、越冬前の生育量が不足します。10 月中には播種を終了し、越冬前の生育量確保に努めましょう。

2) 砕土率

◆ 直径 2cm 以下の土塊の割合 70%以上を目指しましょう。

* 極端に大きい土塊が残らないようにしましょう。土塊が多いと、過乾燥や播種深のバラツキにより、出芽不良・不揃いが生じます。

3) 播種量

◆ 大麦の場合：8～10kg/10aを目安に播種しましょう。

* 播種が遅れる場合は、播種量を増やし、出芽本数の確保に努めましょう。

4) 播種深

◆ ドリル播きの場合、播種深約 3cm 程度で播種しましょう。散播（耕起作業を伴う全面全層播き）では、攪拌深度 5cm 程度としましょう。

* 播種深度が深い場合、出芽不良・初期生育の遅れ・分げつ発生抑制の要因となります。播種深度が浅い場合、乾燥条件では出芽不良、また除草剤や凍霜害・乾燥害の影響を受けやすくなります。

3 麦踏み（踏圧）

◆ 麦踏みは <越冬前に 1 回 + 越冬後に 1～2 回> 実施しましょう。

◆ 1 回目はほ場に凍結層が出来る前（越冬前）、越冬後は生育が再開する起生期（融雪期：平均気温 4℃）以降に実施します。

表 踏圧の効果

麦踏圧	土壤鎮圧
・耐寒性・耐旱性の強化	・霜柱による被害軽減
・徒長・早立ちの防止	・風による土壤移動の軽減・防止
・分げつの増加	・旱害による被害軽減
・分げつ相互の生育調整	・鳥害の軽減
・穂揃いの均一化	
・深根化（→鳥害の軽減）	
・稈の強剛化	